



第3回

# お願いしよう! 注文したい!

～短い言葉で意思表示!～

## 学習のポイント

- 一語一句文を使って依頼や指示ができる
- 一語一句文を使って断ることができる

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

## 一語一句文を使って依頼や指示ができる

英語では、相手に対して「～してくれる」とお願いするときや、指示を出すときには手短かに、

Look! 見て!  
Show me! 見せて!  
Listen! 聞いて!

などと言います。このような言い方は友達同士や家族など親しい間柄でのコミュニケーションのときによく使います。

同じように、

Help me! 手伝って!  
Bring ~ here! ここに～を持ってきて!  
Stop! ストップ!

なども親しい人同士の間での言い方です。

一方、見知らぬ人や、お店などの公の場では、このような言い方は失礼にあたることがあります。カフェで飲み物や食べ物を注文するときなどは、それなりの手順と丁寧な言葉遣いが大切になります。

まず最初に言うべき表現は、

**Excuse me.**

です。日本語の「すみません」にあたります。その後で注文したい品物の名前を言えばいいのですが、

**Three cups of coffee, please.**

のように、最後に**please**を必ずつけるようにしましょう。このたった一語で、あなたの注文の仕方がかなり丁寧になります。

品物を受け取った後には、

**Thank you.**

と言いましょ。日本の店員さんはお客さんに向かってかなり丁寧な言葉遣いをしますが、日本ではお客さんが店員さんに向かって、「ありがとう」とお礼を言うことはあまりありません。しかし、英語では、店員さんもお客さんも同様に相手に対して、**Thank you.**とお礼を言います。

これが英語でコミュニケーションをするときの礼儀です。お客さんから、**Thank you.**と言われた店員さんは、**Thank you.**と **you** のところを強めてお礼を返すか、**You are welcome.** ということが多いようです。

## ■単語や表現

## Excuse me.

この表現は、日本語の「すみません」にあたります。見知らぬ人に呼びかけたり、人混みなどで人の間を通り抜けるときなどにも使います。この辺の使い方は、日本語の「すみません」と似ています。また、人前でくしゃみをしてしまったときや会合などで中座するときなどにも、周りへの配慮の表現として、**Excuse me.** と言います。**Excuse me** ↑. と最後を上げて言うと、「すみませんがもう一度言ってください」と相手の言ったことが聞き取れないときに使う表現になります。

この **excuse** は、エックスキューズと最後の音をズと濁って発音すると「許す、容赦する」という意味になります。ですから、**Excuse me.** とは直訳すると「私を許してください」ということです。この **excuse** をエックスキューズと最後の音をスと濁らずに発音すると、「言い訳、弁解」という意味になります。**No excuse, please.** と言うと、「言い訳は聞きたくないわ、言い訳は結構です」という意味になります。

## ■英語の決まり①

## please

**please** という語は、「(相手)を喜ばせる」というのが元々の意味です。それが次第に丁寧表現の「～してください」という意味で使われるようになりました。物の名前を表す語の後や、動作を表す語の前や後ろにつけて使うと、丁寧に相手に指示を出したり依頼したりする表現になります。

◀ **please** が日本語の「～してください」にあたるからと言って、どのような状況でも使えるわけではありません。相手がする行為が自分の利益になるとときには **please** を付けますが、相手の利益になるとときには付けません。

例えば、部屋が暑いと感じたので人に窓を開けるように頼むときには、

**Please open the window.**

と **please** を付けます。相手が窓を開けることで自分が感じている暑さが和らぐ（＝自分にとっての利益）からです。

ほかの人が部屋が暑くて気分が悪そうな場合、その人に向かって窓を開けるよう言う場合には、

**Open the window.**

となり、**please** は付けません。窓を開けることが気分の悪い相手のため（＝相手にとっての利益）になるからです。

また、旅立つ相手に向かって「お気をつけて」と言うときは、

**Have a safe trip.**

です。安全な旅は相手にとっての利益だからです。ここに **please** を付けると、「お願いだから安全な旅をしてください」というようなニュアンスになり、これを聞いた相手の人は何だか危ないことでも起こりそうな気配を感じるかもしれません。

一語一句文を使って断ることができる

■英語の決まり②

No Smoking

相手に何かしてもらいたくない場合に、**no**を付けて言うことができます。例えば、**With cream?**「クリームを入れますか」と店員さんに聞かれ、断る表現として、

**No cream, please.**

が使われます。この場合、

**No thank you.**

と言っても同じことです。反対に入れてほしいのであれば、**Yes, please.**です。

この **No** は簡潔な表現なので、よく標識などに用いられます。有名なのは、「禁煙」を意味する **NO SMOKING** でしょう。標識ですので、目立つよう全部大文字で書き表してあります。**NO OPEN FLAME HERE**の **Flame**とは炎のことです。**open flame**とは、何の覆いや囲いのない炎がむき出しの火のことを指します。**naked flame**とも言います。**NO LITTERING**の **litter**とは「ごみ」あるいは「ごみを散らかす」ことです。**DO NOT EAT OR DRINK HERE**は、「この場で飲んだり食べたりするな」が直訳です。動作を表す語の前では、**no**ではなく**do not**を付けて、断る表現を作ります。

## アルファベットと発音 ③

## E e

イーと発音します。少し唇を左右に引くようにして発音するとよいでしょう。よく写真を撮るときに、「ハイ、チーズ」と言いますが、これは英語の **Say cheese!** を訳した表現です。英語の **cheese** の **ee** の部分の発音が、このアルファベットの **E e** の発音と同じです。**cheese** と発音するときに、唇を少し左右に引いて発音する様子が笑っている口元に似ているのでこの表現が生まれました。

**English** を「英語」と訳し、イギリスのことを「英国」と私たちはよく呼びますが、この表現は正確ではありません。私たちがイギリスと呼ぶ国は、正確には **England** (イングランド)、**Scotland** (スコットランド)、**Wales** (ウェールズ)、**Northern Ireland** (北アイルランド)、の4つの地域からなっている連合王国です。その連合王国の1つであるイングランドで話される言葉が **English** (イングランド語) です。ではその他の地域で元々話されている言語はと言いますと、スコットランドでは **Scottish** (スコットランド語)、ウェールズでは **Welsh** (ウェールズ語)、北アイルランドでは **Irish** (アイルランド語) です。

この **English** という語の元々の形は **Angle** で、5世紀にヨーロッパ大陸からイギリスに移り住んだアングル族の名前です。この部族の国が **England** で、話す言葉が **English** というわけです。イギリスという語は、この **English** から来ています。イギリスのことを **Britain** と呼ぶことがありますが、これはイングランド、スコットランドとウェールズがあるブリテン島を指す呼び名です。イギリスの人々は自分たちの国のことを **the United Kingdom** (連合王国) あるいは略して **the UK** と呼ぶことが多いようです。

## F f

エフと発音します。フの音は、上の歯を下唇の上に載せて息を吹き出すときに出る音です。上の歯を下唇から離して発音すると別の音になってしまいますので、必ず上の歯を下唇の上に載せて発音するようにしましょう。

